

イネ科通信 39

田園風景

および

タイヌビエとイヌビエ

田園風景：前号に続いてイネ科通信 39 に追加しました。左端はコスモス、中央はヒガンバナ、右端の写真には



イヌビエ（左）とタイヌビエ（右）が写っています。今回はこのイヌビエとタイヌビエをとりあげました。タイヌビエは名前の通り、水田やその周辺に生育する一年草です。イネに紛れて生育し、イネよりも早く種子を散布します。種子が稔ると花序の下の部分から脱落し、イネの刈取り時期にはすでに種子の散布は終わっています。イネに紛れ込むために背丈はイネとほぼ同じになることが有利な筈です。ところが上右の写真に見られるタイヌビエはイネよりも背丈が大きいため刈り取られやすいはずですが、そのため進化が遅れているタイプではないか？と想像してしまいます。これは独りよがりです。[1]の写真で手前に写っているのはタイヌビエでイネの背丈



位です。この花序を拡大したものが[2]の写真です。イヌビエには芒がありますがタイヌビエには芒がないので見分けられます。

写真[3]の上側に写っているのはイヌビエで、その下のものはタイヌビエです。《注》『ヒエという植物（全国農村教育協会）』によればイヌビエは植物体の色、芒、穂型、穂の色、小穂の大きさ、葉の幅、稈の太さ、草型、出穂期などの諸形質が豊富な連続変異を示す極めて多形的な種類であることが実証されています。即ちケイヌビエもイヌビエも同じ植物体なのです。